



安心して暮らすことが できるまちづくりを

置戸町長 井上 久男

新年、明けましておめでとうございます。

皆さまには、お健やかに佳き新春をお迎えることと心よりお慶び申し上げます。

日頃より町民と行政が一体となり、まちづくりに取り組むための「まちづくり基本条例」と「自然を愛し、人にやさしいまちづくり」の実現を目指した第5次総合計画の推進に、平素から深いご理解とご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、長年の懸案事項でありました、特別養護老人ホーム「緑清園」と養護老人ホーム「常楽園」の管理運営が置戸町社会福祉協議会に町指定管理者として引き継がれ、これまで以上に心温まる介護サービスを提供できる仕組みができました。

また、10月にはプロ野球ドラフト会議で、本町で生まれ育った佐藤峻一君（道都大・北見柏陽高）がオリックスバファローズから2位指名を受け、私達町民に大きな喜びと夢を与えてくれました。今後の活躍を大いに期待しております。

さて、国内の経済情勢は、東日本大震災からの復興需要等を背景として緩やかに回復しつつあるものの、欧州政府債務危機を巡る不確実性からの世界経済の減速感、電力供給の制約、デフレの影響等、様々な景気の下押しリスクを抱えており、依然として厳しい状況にあります。

町の財政状況は、財政の健全化を表す判断比率では、一層健全性が保持されているものの、住民ニーズの多様化や高齢者の増加に伴う生活基盤の整備をはじめ、医療、福祉に係る需要が増大します。しかし一方、歳入における町税の減収や地方交付税の動向などにより、財源確保の不安定さが予測される状況にもあります。

このような中、第5次総合計画に基づき簡易水道及び下水道施設の大規模改修、置戸中学校の耐震改修、旧銀河線跡地整備などの大型プロジェクトが、平成25年度から実施段階に入ることから、財源対策をはじめ色々と知恵を絞りながら、社会資本の整備・充実に努めてまいります。

社会情勢は今なお不透明ではありますが、国の政策や方針の的確な把握に努めながら、行財政の健全化と社会資本の強化を図り、町民の皆さまが安心して暮らすことができるまちづくりを職員一丸となって目指してまいりますので、皆さまの尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、町民の皆さまが健康で幸せ多い年でありますよう、心から祈念いたしまして新年のご挨拶いたします。